

釧路総合振興局記者クラブ配付資料

報道発表資料の配付日 令和4年(2022年)10月21日(金)15:00

発表項目	「酪農基盤を活かした和牛生産」のプロジェクトチーム設置及び第1回会議の開催について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時) 月 日 () 時 分	発表者	
		発表場所	
概要	<p>釧路管内の農業は酪農が主体となっているが、牛乳・乳製品の消費低迷や飼料及び燃料等の価格高騰により厳しい経営環境にあることから、酪農家の所得確保が課題となっている。</p> <p>新たな収入源として、肉牛の振興による酪農家の経営安定化に向け、和牛受精卵の移植技術を活用した乳牛による和牛生産の取組を推進するため、弟子屈町をモデル地区として、プロジェクトチームを設立するものです。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 日 時 令和4年(2022年)10月27日(木)13時～14時</p> <p>2 場 所 摩周湖農業協同組合会議室</p> <p>3 出席者 摩周湖農業協同組合 弟子屈町農林課 摩周和牛改良組合 釧路総合振興局釧路農業改良普及センター 釧路総合振興局産業振興部農務課</p> <p>4 内 容 (1) プロジェクトチームの設置について (2) 市場動向等について (3) 推進活動の進め方について (4) 今後の取組内容について (5) その他</p>		
参 考			

報道(取材)に当たってのお願い	<p>○ 取材していただける場合は事前に下記連絡先までご連絡ください。</p> <p>○ 当日の取材に関しては、内容の(1)までとさせていただきます。</p>		
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	
	同時レク		

担 当	釧路総合振興局産業振興部農務課 課 長 高橋 良幸		
(連絡先)	生産振興係長 吉野 広晃		
	TEL: 0154-43-9224 (直通)		

酪農基盤を活かした和牛生産

酪農を取り巻く情勢は、コロナ禍での乳製品の在庫積み増しや生乳の生産抑制、飼料や資材価格の高騰など厳しさを増しており、酪農家の収益性の低下が懸念されている。酪農の持続的な発展と畜産による地域の活性化に向け、近年技術向上が進む性判別精液と和牛受精卵の移植技術（ET）等を活用した「乳牛による和牛生産」を加速していく。

酪農の課題

- ・生乳需給緩和と飼料や資材価格等の高騰による所得低下
- ・施設整備費用の高騰
- ・担い手、雇用労働力の不足

畜産振興への期待

- ・畜産振興による地域活性化の提案（首長・JA・有識者）
- ・釧路港の国際バルク戦略港湾整備、飼料工場の進出
- ・釧路管内和牛生産者がR元全道共進会で大臣賞受賞
- ・畜産振興セミナー（乳牛を活用した和牛生産）の開催（農業者・経済人等120人が参加）
- ・性判別精液や和牛受精卵の技術向上、地域での浸透

和牛振興の課題

- ・受精卵移植に係る経費及び手間の増加
- ・和子牛哺育に係る技術習得

和牛生産に係る取組（酪農家の負担軽減）

- ・キャトルブリーディングステーション（CBS）による地域の哺育一元化（JA阿寒）
- ・和牛向け哺乳ロボット導入（大規模法人）

新たな所得確保による持続的発展

酪農基盤を活かした和牛生産に向けて



Step1 和子牛の生産拡大

- ・農業関係者等による地域に適した和牛生産の方向性の決定
- ・各市町村・JAでの取組方向の検討・決定
- ・農業者への普及啓発、関係者のネットワーク化の推進
- ・市町村・JA等による取組の実施（CBS、公共牧場での受精卵移植）
- ・和牛飼養管理技術に係る指導者の確立

Step2 地域毎に取組を加速

和牛生産者等と連携した和牛改良技術の向上、受精卵の確保と活用促進

放牧地・自給飼料を活用した肥育素牛の生産

既存農家や企業等による育成・肥育の拡大（牧場誘致）

Step3 ブランド化

以下のキーワードを活かした和牛生産及びブランド化・情報発信

- ・雄大な環境での飼育
- ・低炭素
- ・循環型
- ・安全安心

